

# 故加藤龍司先生の御業績を偲んで

国際学部長 西 村 文 夫

国際学部が創設されてから半年、第一期生の入学式も間もない1995年4月5日、国際学部の特徴の一つとする情報科学教育に中軸的役割を期待されていた加藤龍司先生が急逝されました。やがて一周忌を迎えるこの時期、「国際学部研究論集」の発刊を見ることになったこの機会に改めて先生の御業績を偲び、思いを新たにすることはこの学部の目指すところ、また学部の今後の発展にとっても大きな意義があると思われます。

先生は1951年11月愛知県新城市に生まれ、名古屋大学理学部物理学科在学中より天文学を志し、同大学院で宇宙物理学を専攻され、太陽電波干渉計装置、短ミリ波望遠鏡の設置・建設並びに観測活動に参加、電波天文学の専門家として学究の道を歩み始められました。1982年4月、宇都宮大学に赴任後も、現教育学部長の田原博人先生や野辺山宇宙電波観測所連続波観測グループと共同で、電波銀河などの観測研究で精力的に活動され、膨大な電波源データベースの作成、世界的評価を受けた短波長の高精度偏波観測によるファラデー回転を示す電波源の発見など、その業績は高く評価されております。

このような専門的研究を続けながら、先生は宇都宮大学情報処理センターの設立と充実・発展にも尽力され、1991年11月教育学部の情報科学教育講座、翌92年4月から同大学院修士課程の情報科学論を担当されるなど、宇都宮大学における情報科学の研究・教育の中心的スタッフとして活躍されました。1994年10月全学的改革の一環としての国際学部創設に参画され、学部専門教育としてのネットワーク概論、データベース概論、同演習ほか同学部の特徴の一つとしての情報科学教育にとって最も重要な学科目を担当されることになっておりました。その突然の御逝去は惜しみて余りあるものがあります。

社会・人文科学のみならず、自然科学の領域も含む広範な現代世界の問題を追求しようとする国際学部の構想の中で、情報科学教育はその特色の一つとして大きな役割を期待されており、その基礎を築かれた先生の御業績は、御生前の大学における御貢献はもとより、その御遺志によって現在設置計画中の「加藤メモリアル CD-ROM」など、全学及び国際学部にとって貴重な資産として残されております。加藤先生の御冥福をお祈りしつつ、先生の御遺志にかなう学部の発展のため、スタッフ一同努力したいと思います。